

ヨコトリツ!

横浜トリエンナーレサポーター Hama-Treats!'s フリーペーパー Yoko-Treats!

VOL.12
SEP.2015

地域の芸術祭を訪ねよう



「ヨコトリツ!(Yoko-Treats!)」は、「横浜トリエンナーレ」を応援し一緒に盛り上げる活動を行うサポーター「ハマトリツ!」による手作りのフリーペーパーです。「トリツ/Treats」には、「思わぬ喜び、とてもいいもの」という意味があります。横浜のいいもの、楽しいものをお伝えしたい! ということで名付けました。ハロウィンの決まり文句「Trick or Treat!」(「トリック オア トリート!」=お菓子をくれなきゃイタズラするぞ!)から連想して、みんながワクワクするような情報交換の場を目指しています。

ハマトリツ!
公式サイト <http://www.yokotorisup.com>

ハマトリツ!の活動に参加したい!

と思ったら...

現在、ハマトリツ!は次回2017年開催予定の横浜トリエンナーレに向けて活動中!アート好きに限らず、横浜のまちに興味がある、デザインや写真が得意、イベント運営に関わってみたい...などなど、様々な方向性に関心のある人たちが集まって活動しています。「すこし活動を覗いてみようかな」という方も大歓迎!ぜひ一緒に活動しませんか?

チーム活動 4つのチームがそれぞれの活動テーマの実現に向けて自分たちで活動内容を考え、チームのメンバーと協力しながら実践していきます。

2015年度の
主な活動は
この2つ!

ゼミ 自分でやってみたいテーマを設定して仲間を集めて短期間で活動する、ちょっと実験的なプログラムです。

チーム活動に参加したい!

企画・イベントチーム LOGBOOKチーム
子どもアートチーム フリベチーム

気になるチーム活動を見つけたら
・ウェブサイトやメールニュースをチェックして興味のある活動に参加してみる
・サポーター事務局 info@yokotorisup.comに問い合わせる



メールニュースではハマトリツ!の活動に関する最新情報のほか、チーム活動日、近隣施設でのイベントなど様々な情報をお届けしています。メールニュースはサポーター公式ウェブサイトからサポーター登録をすると配信されます。

「ゼミ」のプログラムに参加したい!

月に一度、横浜美術館に集まって活動します。様々な分野の専門家をゲストに迎えてのトークイベントやワークショップなどもあわせて開催!まずはお気軽に見学へお越しください!
※横浜美術館ボランティアと合同で行うプログラムです。
※今年度の「ゼミ」は、活動期間がI期(5月~9月)とII期(10月~3月)に分かれています。

次回のゼミは **ゼミII期 Orientation**
「テーマを持ちよってグループを作ろう!」
「ゼミ」第2期がよいよスタート!
詳細・申込は公式ウェブサイトにて

10/18
(日)

TRIENNALE SCHOOL 2015 vol.1

トリエンナーレ学校は、横浜トリエンナーレと一緒に盛り上げるボランティア(=サポーター)活動の一環として2005年から始まりました。様々なテーマを持つ講座に参加することで、横浜トリエンナーレをはじめ、国際展やアート、創造都市などに関する知識を楽しく身につけていく学校です。

「記録からみる
ヨコハマトリエンナーレ2014」
映像や写真など様々な記録からヨコトリ2014を振り返ってみよう!

トリエンナーレ学校2015 2015年11月25日(水)開催決定!

www.yokotorisup.com 時間:19:00~21:00(開場18:30~)
参加は公式ウェブサイトからお申込みください 会場:YCCヨコハマ創造都市センター3F

参加費
無料

横浜トリエンナーレサポーター'sフリーペーパー「ヨコトリツ!」VOL.12 ●企画・編集:横浜トリエンナーレサポーター「Hama-Treats!」フリベチーム(青木邦彦/伊藤恵理/上田良寛/大澤歩/斉藤照子/成田真治/深野一穂/山田崇之) ●カバーアート:内木場絵理 ●紙面デザイン:山田崇之 ●発行日2015年9月26日 ●発行元:お問合せ:横浜トリエンナーレサポーター事務局[横浜市西区みなとみらい3丁目4-1 横浜美術館 横浜トリエンナーレ組織委員会事務局内] TEL:045-288-7816 ●横浜トリエンナーレサポーター「ハマトリツ!」公式サイト <http://www.yokotorisup.com>



子どもアートチーム 8/2 ワークショップ報告 「夏だ!キラキラ★色水で大さわぎ?!」

8月2日(日)ふりーふらっと野毛山にて、今期初ワークショップを行いました!

タイトルは「夏だ!キラキラ★色水で大さわぎ?!」内容は巨大ゼリーに色水を注入する遊び、ペットボトルを使って色水をつくる遊びの二本立て。

前日夜からゼリーを仕込み、いざ、本番!...しかし、連日の猛暑、この日も最高気温36度という中、事前エントリーは6人あったものの参加してくれた子どもはたった3人(泣)

気を取り直してスタート! ぶるん、と登場した透明の巨大ゼリーに子どもたちの目が輝きます。食用色素で作った色水をスポイトで注入していくと、色が混じって行く様子に興味津々。さらに手で壊していくとアート作品と思えるくらい綺麗に壊れるゼリーたち。

沢山仕込んだゼリーに大人も一緒にその触感を楽しみました。

さて、次はペットボトルのふたに絵の具を乗せ、ふたをしゃかしゃか、あつという間に出来上がる色水に子どもたちの目がまた輝きます。沢山の色水をつくり、ジュース屋さんを始めたり、外に持ち出して陽の当たる階段に並べたり。子どもたちならではの発想で楽しんでくれました。

プロモーション、タイムキープなど課題も沢山見えたワークショップでしたが、次に繋がるいい経験になりました。子どもたちのキラキラの目、何かを創ってみせる得意げな顔に接するとおとなも幸せな気持ちになります。次回もまたいい企画を、子どもアートチーム一同、頑張っていきます (子どもアートチーム 駒田)



LOGBOOKチーム+かるがも隊! 多摩でLOGBOOKしてきました!

9月12日(土)~13日(日)に東京都多摩市の文化施設「パルテノン多摩」周辺で行われた「ミニ1キロフェス」でLOGBOOKが行われ、私たちもスタッフとしてお手伝いをしてきました。

このフェスは演劇イベント「多摩1キロフェス」のサポーター「かるがも隊」が企画運営するイベントです。私たちの講師・市原幹也氏によって今年6月、多摩1キロフェス関連企画としてLOGBOOKが行われ、準備のお手伝いしたご縁からかるがも隊との交流が始まりました。

当日は天気にも恵まれ、多くの家族連れで賑わい、ヨコトリの会場とは一味違う雰囲気でした。「お宝探しの冒険」という子ども向けPRも功を奏し、「やりたいたい!」と言って親御さんにねだる子が続々とやってき

ました。遊び方の説明、参加者の見守りなどスタッフは大忙しでしたが、親子問わず「楽しい!」「面白い!」と感想をいただき、励みになりました。階段の昇り降りがあるコースを巡ったお母さんから「痩せました(笑)」と言われたこと、ベビーカーを押す方に階段を省略してエレベータを案内したことは、丘の上にある多摩の会場ならではの出来事です。

LOGBOOKには演劇、街の記録、宝探しなどさまざまな要素が含まれていますが、改めてその奥深さを感じられたこと、今後横浜でLOGBOOKをする時のヒントをもらえたこと、そしてかるがも隊の皆様と一緒に活動できたことが何よりも嬉しい結果です。関わってくださった皆様へ感謝!

(LOGBOOKチーム 原田)

2013年のあいちトリエンナーレ遠足(ヨコトリツ! VOL.1)をご覧ください)では公共交通機関を利用したが、今回は大地の芸術祭サポーター「こへび隊」のガイドさんが同行するバスツアー。非常に広範囲に作品が散在するた

越後妻有は、地元の人々が作品制作にも参加し、作品の説明もしてくれるということを知っていたので、首都圏など地域外からのサポーターが多いというのは意外だった。第1回の立ち上げ時にプロジェクトを支える美術学生だった人が、その後サポーターとして参加する場合も多いという。廃校を利用した宿舎があって、そこで

最初に着いた清津倉庫美術館は、廃校になった小学校の体育館をリノベーションしたもの。校舎の方にも展示があり、生徒たちがここで勉強した痕跡が残っていた。ここに限らず、廃校を使った展示が多い。展示が主目的ではない「CIAN」地域芸術研究所「も含めると、今回訪問した7箇所中4箇所が廃校を、1箇所が古民家を再生利用している。そのうちのひとつ、「鉢&田島征三 絵本と木の

実の美術館」は、テーマも廃校にちなんだもの。最後の生徒ウキ、ユカ、ケンタの3人とお化けたちが織り成す物語を、流木や木の実を使った立体作品で再現している。全館を使ったダイナミックな作品だ。ガイドさんのお話で興味深かったのは、地元の人々との関係。ただ観光客を呼ぶためでなく、地元の人たちが参画する芸術祭だということ

理解してもらわなければならない。最初は納得するのに苦労の連続だったそうだ。作品の一部は公募制だが、採用が決まってもそれで終わりではない。作品の展示場所の合意を得るため、アーティストは地元の人前でプレゼンテーションを行う。これを「お見合い」と称しているのが興味深い。

ゼミで遠足を企画。みんなで行きました！ 大地の芸術祭を訪ねて

2015年度から始まった横浜美術館ボランティアとハマトリツ!の合同活動「ゼミ」の一つに、遠足企画「各地のアートイベントを訪ねよう。」ゼミがあります。そのゼミが企画した、8月29日の「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2015」バスツアーに参加してきました。

サポーター活動の共通点、それは、人のつながり

「各地のアートイベントを訪ねよう!」と題して、5月に遠足ゼミは始まりました。

まずゼミメンバー内での連絡用にフェイスブックでグループページを立ち上げたり、みんなで行き先や日程を決めたり、ツアーの問い合わせをしたり、企画書を書いたり、旅のしおりや手旗を作ったり、そうやって今回も、というか2014年のヨコトリのときから、自分たちなりに考えて活動しながら気になり始めていたんです。「他の芸術祭のサポーターはどんなことしてるんだろ?」

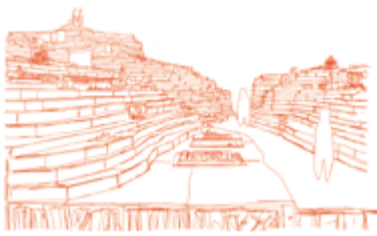
大地の芸術祭サポーターであるこへび隊、広範囲な里山を舞台にした活動は都市部で行われるヨコトリとは違う何かがあるのでは、と期待を抱いて8月29日、ついに訪れた越後妻有。

一番に感じたのは、とにかく元気な人々の姿。芸術祭を案内してくれたこへび隊の杉浦さん、昼食を食べたうぶすなの家のお母さんたち、もぐらの館の受付のおいしいちゃんおばあちゃん、まつだい里山食堂のスタッフさんたち。山の中の作品を歩いて目指す来場者たち。

大地の芸術祭が作っているのは訪れる人や地域の人、さまざまな交流から生まれる人の元気で、それをつないでいるのがアートであり、そしてツアーのガイドや会場での受け付けから田んぼの手入れなど、実際に汗を流して活動しているこへび隊なのだな、と感じました。

いつも多くの人が行き交う横浜で活動していると実感しにくかったように思うけど、こへび隊の活動を知ることで、環境は違ってもサポーター活動が生み出すのは同じように人のつながりなのかもしれないと、個人的にはそんな気付きを持ち帰る遠足となりました。

(遠足企画「各地のアートイベントを訪ねよう。」ゼミ 北野)



インターローカル・アート・ネットワーク・センター「CIAN: 地域芸術研究所」

御多分に成れず元小学校を利用した施設(旧清水小学校)CIANは、全国各地の芸術文化事業に関する資料収集保存を行っている。ヨコトリの数々の資料や残った「ヨコトリツ!」も!! いくつかのアーカイブと相まって、芸術祭はさまたげないと思いの集積から成ると感じさせる川原正「ツマリ・ジオラマ」(必見。(久地岡))



〈棚田〉イリヤ&エミリア・カバコフ

棚田に原色の黄色や青で彩られた農作業をする人々の姿が象られた周縁が設置されている。農舞台の階下、建物と切り取られた画面から眺めたが、棚田の緑と周縁の原色、また平らな棚田と躍動感ある周縁、その対照が一際目を引き印象的だった。季節の流れと人、大地の繋がりが自然の中で力強く語られていた。(可合)



こんな作品・場所が印象的でした!

Soil Museum もぐらの館 廃校になった小学校が会場ですが、教室も階段も廊下も天井も土と木の造形物でいっぱい。学校が森や海や洞窟になっていました。焼物やオブジェ、土の絵の具で描かれた巨大な壁紙、草木染め・泥染め。土と木にはこんなにたくさん色があるんですね。(つぐち)

〈もぐらの散歩道〉 日置拓人+本田匠 美術館の中で、特に【土】を体感できる作品でした! 校舎の廊下は土で覆われ、その上に積み上げられた石垣は土で表現されています。天井には十日町の土で染められた布が張り巡らされ、土の匂いが充満した空間に、まるで建物の外にいるような異様さを感じました。豊穣な土に恵まれた新潟で暮らすもぐらは、こんな視点で歩く(走る?)のがもぐらじゃない……と、想像も楽しい作品でした。(つぐち)



〈花咲ける妻有〉(草間彌生)の前で記念撮影

ほかにもいろんなゼミが活動中!

遠足企画「各地のアートイベントを訪ねよう。」ゼミのほかにも、I期(5~9月)は全部で10のゼミが、自分たちで考えたテーマで活動中。そのなかから、ここでは3つのゼミの活動状況をご紹介します。もうすぐII期(10~3月)もスタート。気になるゼミに参加しよう!

ゼミ 時をかけるヨコハマ~4次元情報に基づくヨコハマの今昔案内~ 「ブラフ」から横浜の地理・歴史を汲み出す

横浜の魅力は千言万語を費やしても言い尽くせないでしょう。それならば、横浜を特徴づける一語を選んで徹底的に掘り下げたらどうか、と思ったのがこの活動の発端です。一語から地理的、歴史的な広がりを探り出す試みです。最初の一語はブラフ(Bluff)。意味は「切り立った崖」の他に、地形の特徴から「横浜山手(The Bluff)」を掲げる辞書もあります。

山手の崖はどこかと思われるひとのために崖体験ルートを案内します。山手の歴史は居留地時代から始まるに等しいですが、異人館巡りの途中から居留地時代の遺産や面影に出会うルートも案内します。あなたの予定にちょっと付け足して頂く意味で「ちょい足しルート」。そのような案内を作ることが目標です。



これから取上げる予定の一語に「山下」「生麦事件」「天然氷」など。あなたのこだわりの一語を追加することも可能です。作業は調査、写真撮影、記事作成、編集など。時々、みんなで路上観察にも出向きましょう。(深野)

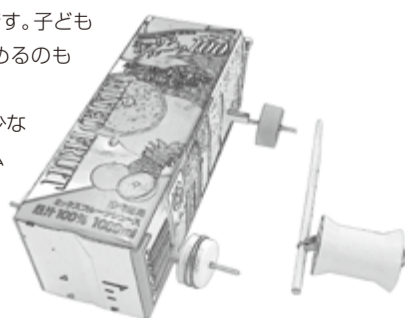
ゼミ ただのゴミと思うなよ。リユースプロジェクト2015 工作で子ども向けワークショップを模索

私たち廃材ゼミでは、I期中に子どもむけのワークショップができるように話し合いをしてきました。捨てられるものを使って、使えるもの楽しめるものを子どもたちと作っていきけるようにということで動いています。

毎月のゼミでは、どんな廃材を使って何をやるかなど実際に廃材を持ってきて作ったりもしました。これまでにできた廃材は、いらなくなったボールペンや楽器でペン立てを作ったり置物を作ったりしてきました。

ワークショップの時期や場所はまだ未定ですが、内容は決まりつつあります。現段階で出ているのは、牛乳パックとペットボトルのキャップと輪ゴムで動く車を作ることです。子どもたちにとっても楽しめるものが作れると思います。

また、廃材ゼミの人数が少ないためこどもアートチームと合同で実施する話も出てきています。具体的な話は、II期に入ってからやりたいと考えています。(伊藤)



ゼミ 障がい者向けプログラムを考える 視覚障がい者向けのアート鑑賞とは!?

「障がい者向けプログラムを考える」をテーマに、今年5月にゼミ活動をスタートしました。メンバーは、全6名で、横浜トリエンナーレのサポーター経験者や、美術館のボランティアをしていた方など、アートや障がい者サポートに興味のある人たちが集まっています。



6月の集まりでは、障がい者とアートに関することを調べて意見交換をしたり、視覚障がい者向けのアート鑑賞の取り組みをおこなっているところを見つけたり、勢いで、BankART Studio NYKのレジデンスプログラムでスタジオインしているマリスアートプロジェクトを見学しました。ここでは、作者の方へのインタビューをし、視覚障がい者の方にどのように作品紹介をするのが良いか聞くことも出来ました。

今までの活動を通して、視覚障がい者向けのアート鑑賞は、視覚障がい者の方とアート鑑賞の両方を良く知ることが大切という事を実感しました。これからも情報収集やディスカッションなどを重ね、なにか役立つことが出来るよう活動をすすめていきます!!(脇川)